

現代日本の青年期の男女における 善悪に関する意識構造と道徳領域判断

(4) 「善さ」の行動化

A Study on the Sense of Morality in Japan : Difference of judgment
in adolescent men and women (4) practice and judgment of moral good deeds

阿部 洋子

Yohko ABE

問 題

子どもたちの道徳心は、誰がどのように育成すればよいのだろうか。家庭での躾、学校での道徳の授業、地域社会での関係性のあり方などが重要であろう。しかし、現代の日本の青少年を取り巻く環境は、道徳心を育成するための場としての機能をどの程度、果たすことができているのだろうか。また失われてしまったのだとすれば、具体的にどのような機能が失われたのだろうか。

Smetana 等 (1983) は、道徳・社会的慣習・個人のそれぞれの領域に属すると判断された行為を列挙して貰い、続いてそれらの行為は、規則の有無に関わらず、即ち法律による罰則規定の有無に関わらず、「善い / 悪い」と思うかの判断を求めた。その結果、19-20 歳以上になれば、道徳領域に属する行為は、75-100% の範囲で、規則や期待の有無に関わらず（「規則随伴性」と称する）、「善い / 悪い」と判断することができるようになる。一方、個人領域に属する行為は、88-100% の範囲で、個人の自由に任せる方がよい（「個人決定権」と称する）と判断されると報告している。ところで、道徳と類似する概念として、社会的慣習があるが、それらの行為は、道徳領域に属する行為における、規則随伴性と善悪の判断の間に見られる強い関係性を見出すことはできなかった。つまり、Turiel (1983) が述べるように、道徳領域と社会的慣習領域は、異なる行為として認識されていると、Smetana 等 (1983) も結論づけている。

筆者はこれまで、予備的調査を実施（阿部；1996, 1998, 2005）し、現代の日本における道徳に関する意識構造の特徴を、領域判断、悪さの程度、社会的文脈などから検討してきた。その後の報告(2009, 2010)では、青年期男女を対象とし、善悪両方の行為について調査を実施し、その報告を行った⁽¹⁾。本著は、紙数の関係で、前回の報告(2011)で残されていた「善さ」についての判断と、日常生活の中でその行為をどの程度実行されているかについての結果報告を行うものである。

方 法

1. 調査対象者および調査の実施方法

調査期日：2008年10月1日～30日

調査対象者：埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、翌週の授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票のうち、記入漏れなどの欠損データのあるものを除き、251名（男子：92名、女子：159名）を分析の対象とした。

2. 質問紙の構成

1) 道徳性尺度（善さ）

選定された行為は、大学生86名に対して、「道徳的に好ましくないと思われる行為」について、各人が10項目を挙げて貰った結果、抽出されたものであった（阿部；1995年、未発表）。その結果、100以上に及ぶ行為が抽出された。それらの行為について、大学院生3名により、類似の表現のものをまとめ、27項目が選定され（阿部；1995年、未発表）、青年期の男女において、以下の側面について、どのような特徴が見られるかを検討したいと考えた。

- ①「善さ」の程度： 選定された27項目について、どの程度善いと感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で、1点刻みの評定を求めた（非常によい：10点～良いことなどは、全く考えられない。なぜ、良いことなのか、理由が全く分からない：0点）。
- ② 当為性： 選定された27項目について、その行為は「必ずそうすべきだ：5点～そうする必要は全くない：0点」の5段階尺度で評定を求めた。
- ③ 領域判断： 選定された27項目について、その行為を「した方がよい」と考える“暗黙のルール”は、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属すると考えるかについて、いずれか1つを選択するよう求めた。

(1) 「道徳性尺度（悪さ）」についての悪さの程度、領域判断、当為性の結果は、『跡見学園女子大学文学部紀要第42号（2）（2009年）』において、報告した。また、「道徳性尺度（善さ）」についての善さの程度、領域判断、当為性の結果は、『跡見学園女子大学文学部紀要第44号（2010年）』において、報告した。

- ④行為の重要性⁽²⁾： 選定された27項目について、それらの行為の重要性について、どのように感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で1点刻みで評定を求めた（非常に重要だ：10点～全く重要ではない：0点）。
- ⑤ 行為の実行： 選定された27項目について、それらの行為を、自分自身が普段、どの程度、実行しているかについて、「いつも実行している：5点～全く実行していない：1点」の5段階尺度で評定を求めた。

2) 自己抑制尺度⁽³⁾

道徳性尺度（悪さ・善さ）により測定された結果の妥当性を検証するためには、日常生活における行動の自己評定および他者評定との相関を見ることが重要である。しかし、授業での関わりしか持たない調査対象者について、これらの情報を得ることは困難である。したがって次善の策として、道徳性と関係が深いと考えられる「社会性の発達の良好さ」、「責任感」、「真面目さ」等について測定した結果が、日常生活における行動評定との間で相関が見られるとされ、信頼性、妥当性ともに検証されている複数の質問紙から、いくつかの項目を選定し、それらの結果との相関を見ることにした。但し、これらの調査用紙の対象者は一般的に年齢が低いことや、意見を問うものと事実を問うものが渾然一体となっていることなどの問題点がある。

そこで、「予備的調査」（阿部；1998）で用いた70項目を元に、前回の調査（阿部；2007）でも項目水準での高い信頼性を得られた「自己信頼に基づく独立心・自立心」、「他者からの高い評価」、「決めたことをやり遂げる意志力・克己心」、「自己開示」の21項目を用いることにした。なお、この尺度の中に「虚偽性」（以下、L項目と称する）に関する4項目を加え、合計25項目を用いることにした。評定は、それらの行為が日常の自分の行動に、どの程度当てはまるかについて5段階評定法を用い、回答を求めた（非常にそうである（はい）：5点～全くそうでない（いいえ）：1点）。合計得点を「自己抑制尺度得点」とし、合計得点が高いことをもって「自己を律する能力」が高いと考えた。

(2) 「行為の善悪の重要性」についての結果は、『跡見学園女子大学文学部紀要大43号（2010年）』において、報告した。

(3) 「自己抑制尺度」についての結果は、紙数の関係で、この報告では割愛した。前回の調査結果（2007）でもGP分析、クロンバックの α 係数などから、項目水準で高い信頼性が確認されている。因子構造は第1因子「意志力・克己心、決めたことをやり遂げる」、第2因子「自己開示」、第3因子「独立心・自立心」、第4因子「他者からの高い評価」が求められた。

結 果

1. 「虚偽項目 (L 項目)」の検討

「自己抑制尺度」25項目の中に組み込んだ「L項目」(①「あなたのまわりに、嫌いな人は一人もいませんか」、②「あなたは、その日にすべきことを、やらなかったことは1度もありませんか」、③「あなたは、他人に知られては困るような、良くないことを考えたことは1度もありませんか」、④「あなたは、他人の悪口を言いたくなかったことが1度もありませんか」)の総得点は、調査対象者の95%の者が12点以下であり、13点以上の者は13人であった(Me. = 7.28点、SD = 2.93、N = 251人)。そこで、この13人(男子:6名、女子:7名)の回答については「社会的望ましさ」に強く引かれており、信頼性に欠ける可能性が高いと判断し、以下の分析から削除することにした。そのため、これ以降の分析対象者は、238名(男子:86名、平均年齢=21.09歳(SD = 3.60)、女子:152名、平均年齢=20.21歳(SD = 1.49))となった。

2. 「道徳性尺度 (善さの行動化)」の検討

1) 「善さの行動化」の因子構造による検討

「道徳性尺度 (善さ)」の27項目における「善さの行動化」について、男女別に、それぞれ因子分析を実施した(主因子法、プロマックス回転)。その結果、スクリー法により、男女とも4因子が抽出されたが、男女において因子構造は異なっていた。

男子では、第1因子の固有値が6.61、寄与率が24.49%と大きく、「No.5 年上の人に対して敬語(相手を敬った言葉遣い)を使う」、「No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」など、礼儀と公衆道徳を含む項目であった。善さの行動化の平均得点は、4.15点(SD = 1.23)であった。

No.5 年上の人に対して敬語(相手を敬った言葉遣い)を使う。

因子負荷量(0.78) 平均点(4.40) SD(0.66)

No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く〕。

因子負荷量(0.70) 平均点(3.98) SD(0.93)

No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。

因子負荷量(0.66) 平均点(3.88) SD(1.02)

No.4 学校の先生に挨拶をする。

因子負荷量 (0.62) 平均点 (4.16) SD (0.78)

No.3 近所の人に挨拶をする。

因子負荷量 (0.58) 平均点 (3.86) SD (0.86)

No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我（けが）をしている人に席をゆずる。

因子負荷量 (0.53) 平均点 (4.35) SD (0.81)

No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.23) 平均点 (4.44) SD (0.79)

第2因子は、固有値が2.25、因子寄与率が8.33%であり、「No.20 日本の国を愛する。大切に思う」、「No.26 自然を大切にする」など、愛、夢、自然、人間関係など大切にすべきものという言葉に代表させられる項目であった。善さの行動化の平均得点は、3.54点 (SD = 2.31) であった。

No.20 日本の国を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.88) 平均点 (3.28) SD (1.07)

No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。

因子負荷量 (0.77) 平均点 (3.37) SD (1.02)

No.25 夢や目標を持つ。

因子負荷量 (0.74) 平均点 (3.56) SD (0.98)

No.8 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する。

因子負荷量 (0.50) 平均点 (3.00) SD (0.97)

No.26 自然を大切にする。

因子負荷量 (0.37) 平均点 (4.47) SD (0.55)

No.23 世界中の人を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.32) 平均点 (3.58) SD (0.87)

第3因子は、固有値が2.04、因子寄与率が7.56%であり、「No.12 法律を守る」、「No.11 社会のルールを守る」、「No.10 小学生・中学生が校則を守る」などで、「ルールの遵守」に関する項目と、「No.13 年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする」ものであった。善さの行動化の平均得点は、3.55点 (SD = 0.46) であった。

No.13 年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする。

因子負荷量 (0.73) 平均点 (3.35) SD (1.15)

No.27	自然と調和した生き方をする。	因子負荷量 (0.71)	平均点 (3.84)	SD (0.97)
No.16	先祖のお墓参りに行く。	因子負荷量 (0.68)	平均点 (3.84)	SD (0.97)
No.10	小学生・中学生が校則を守る。	因子負荷量 (0.57)	平均点 (3.84)	SD (0.92)
No.12	法律を守る。	因子負荷量 (0.56)	平均点 (3.49)	SD (0.98)
No.17	自分の先祖を大切に思う。	因子負荷量 (0.54)	平均点 (3.79)	SD (1.01)
No.11	社会のルールを守る。	因子負荷量 (0.31)	平均点 (4.35)	SD (0.64)
No.19	太陽に手を合わせる。	因子負荷量 (0.27)	平均点 (1.93)	SD (0.85)

第4因子は、固有値が1.44、因子寄与率が5.33%であり、「No.18 神仏に手を合わせる」、
「No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「No.1 他人に対して、
「ありがとう」など、感謝のことばを言う」など、家族、親、他人に対する感謝の表明と神仏に手
を合わせるものであった。善さの行動化の平均得点は、4.13点 (SD = 2.89) であった。

No.14	家族揃って、食事をする。	因子負荷量 (0.61)	平均点 (4.44)	SD (0.66)
No.2	家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	因子負荷量 (0.58)	平均点 (4.12)	SD (0.69)
No.1	他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	因子負荷量 (0.47)	平均点 (4.16)	SD (0.72)
No.18	神仏に手を合わせる。	因子負荷量 (0.46)	平均点 (3.21)	SD (1.18)
No.15	親孝行する。	因子負荷量 (0.43)	平均点 (4.35)	SD (0.61)
No.22	日本人を愛する。大切に思う。	因子負荷量 (0.40)	平均点 (4.51)	SD (0.55)

女子でも、第1因子の固有値が6.87、寄与率が25.46%と大きく、「No.11 社会のルールを守る」、「No.12 法律を守る」、「No.5 年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）を使う」、「No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「No.4 学校の先生に挨拶する」、「No.3 近所の人に挨拶する」などで、礼儀、ルール、感謝、自然や故郷を大切にする行為であった。善さの行動化の平均得点は、4.08点（SD = 0.33）であった。

No.26 自然を大切にする。

因子負荷量 (0.63) 平均点 (4.32) SD (0.62)

No.4 学校の先生に挨拶をする。

因子負荷量 (0.59) 平均点 (4.28) SD (0.60)

No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.57) 平均点 (4.01) SD (0.74)

No.3 近所の人に挨拶をする。

因子負荷量 (0.53) 平均点 (3.91) SD (0.64)

No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。

因子負荷量 (0.50) 平均点 (3.91) SD (0.61)

No.5 年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）を使う。

因子負荷量 (0.50) 平均点 (4.38) SD (0.54)

No.27 自然と調和した生き方をする。

因子負荷量 (0.44) 平均点 (3.73) SD (0.76)

No.12 法律を守る。

因子負荷量 (0.41) 平均点 (3.56) SD (0.88)

No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。

因子負荷量 (0.40) 平均点 (4.18) SD (0.67)

No.22 日本人を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.38) 平均点 (4.18) SD (0.67)

No.11 社会のルールを守る。

因子負荷量 (0.36) 平均点 (4.15) SD (0.58)

No.7 乗り物の中で、障害のある人、怪我（けが）をしている人に席をゆずる。

因子負荷量 (0.33) 平均点 (4.38) SD (0.57)

第2因子は、固有値が1.72、因子寄与率が6.37%であり、「No.18 神仏に手を合わせる」、「No.17 自分の先祖を大切に思う」、「No.16 先祖のお墓参りに行く」、「No.19 太陽に手を合わ

せる]、「No.13 年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする」などで、「神仏、太陽の礼拝の実行」、「先祖、行事の尊重」など祀る、手を合わせるなどであった。善さの行動化の平均得点は、3.27点（SD = 2.54）であった。

No.16 先祖のお墓参りに行く。

因子負荷量 (0.84) 平均点 (3.82) SD (0.87)

No.17 自分の先祖を大切に思う。

因子負荷量 (0.77) 平均点 (3.78) SD (0.91)

No.18 神仏に手を合わせる。

因子負荷量 (0.71) 平均点 (3.18) SD (1.09)

No.19 太陽に手を合わせる。

因子負荷量 (0.49) 平均点 (2.15) SD (0.97)

No.13 年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする。

因子負荷量 (0.41) 平均点 (3.41) SD (0.92)

第3因子は、固有値が1.44、因子寄与率が5.34%であり、「No.25 夢や目標を持つ」、「No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」などで、夢や愛に関するものであった。善さの行動化の平均得点は、3.50点（SD = 2.21）であった。

No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。

因子負荷量 (0.83) 平均点 (3.33) SD (0.91)

No.23 世界中の人を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.72) 平均点 (3.51) SD (0.96)

No.20 日本の国を愛する。大切に思う。

因子負荷量 (0.61) 平均点 (3.26) SD (0.97)

No.25 夢や目標を持つ。

因子負荷量 (0.59) 平均点 (3.45) SD (0.92)

No.6 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。

因子負荷量 (0.24) 平均点 (3.94) SD (0.67)

第4因子は、固有値が1.32、因子寄与率が4.88%であり、「No.15 親孝行をする」、「No.14 家族揃って、食事をする」、「No. 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」など人間関係、親との関係、公衆道徳に関するものであった。善さの行動化の平均得点は、3.90点（SD = 1.67）であった。

No.15 親孝行する。

因子負荷量 (0.72) 平均点 (4.26) SD (0.64)

No.14 家族揃って、食事をする。

因子負荷量 (0.57) 平均点 (4.38) SD (0.70)

No.9 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く〕。

因子負荷量 (0.45) 平均点 (4.04) SD (0.64)

No.8 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する。

因子負荷量 (0.40) 平均点 (3.01) SD (0.71)

No.10 小学生・中学生が校則を守る。

因子負荷量 (0.37) 平均点 (3.82) SD (0.78)

2) 善さの程度、重要性と行動化の関係：相関分析による検討

「道徳性尺度（善さ）」の27項目の「行動化」の得点と、既に結果の報告を行った「善さの程度」の得点と「善さの重要性」の得点の相関分析を実施し、「程度」と「重要性」のいずれが「行動化」を予測させるのに有効な測度であるかについて検討した。

男子において、「善さの程度」の得点と「行動化」の得点との間に相関が認められなかったのは、以下の10項目であった。

No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。

(Me. = 4.16, SD = 0.72)

程度 (Me. = 8.93, SD = 1.30) ⁽⁴⁾ 重要性 (Me. = 8.53, SD = 1.60) ⁽⁵⁾

No.2 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。

(Me. = 4.12, SD = 0.69)

程度 (Me. = 8.28, SD = 1.97) ⁽⁶⁾ 重要性 (Me. = 8.26, SD = 1.78)

No.4 学校の先生に挨拶をする。

(Me. = 4.16, SD = 0.78)

程度 (Me. = 7.60, SD = 2.52) ⁽⁷⁾ 重要性 (Me. = 7.33, SD = 2.31) ⁽⁸⁾

(4) $r = -0.04$ (5) $r = 0.11$ (6) $r = 0.04$ (7) $r = 0.18$ (8) $r = 0.18$

- No.11 社会のルールを守る。 (Me. = 4.35, SD = 0.65)
 程度 (Me. = 8.05, SD = 1.99) ⁽⁹⁾ 重要性 (Me. = 8.42, SD = 1.57)
- No.12 法律を守る。 (Me. = 3.49, SD = 0.98)
 程度 (Me. = 8.37, SD = 2.26) ⁽¹⁰⁾ 重要性 (Me. = 8.86 (SD = 1.57) ⁽¹¹⁾)
- No.15 親孝行する。 (Me. = 4.35, SD = 0.61)
 程度 (Me. = 8.37, SD = 1.89) ⁽¹²⁾ 重要性 (Me. = 8.19, SD = 1.70)
- No.22 日本人を愛する。大切に思う。 (Me. = 4.51, SD = 0.55)
 程度 (Me. = 6.33, SD = 2.63) ⁽¹³⁾ 重要性 (Me. = 5.86, SD = 2.93) ⁽¹⁴⁾
- No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。
 (Me. = 3.37, SD = 1.02)
 程度 (Me. = 9.12, SD = 1.37) ⁽¹⁵⁾ 重要性 (Me. = 8.51, SD = 2.37) ⁽¹⁶⁾
- No.25 夢や目標を持つ。 (Me. = 3.56, SD = 0.98)
 程度 (Me. = 8.47, SD = 2.43) ⁽¹⁷⁾ 重要性 (Me. = 8.56, SD = 2.18) ⁽¹⁸⁾

また「善さの重要性」の得点と「行動化」の得点との間に相関が認められなかったのは、以下の8項目であった。

- No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことは言う。
- No.4 学校の先生に挨拶をする。
- No.12 法律を守る。
- No.14 家族揃って、食事をする。 (Me. = 4.44, SD = 0.66)
 程度 (Me. = 6.91, SD = 2.78) 重要性 (Me. = 6.58, SD = 2.68) ⁽¹⁹⁾
- No.15 親孝行する。
- No.21 自分の故郷を愛する。大切に思う。 (Me. = 4.44, SD = 0.79)
 程度 (Me. = 6.65, SD = 2.95) 重要性 (Me. = 5.79, SD = 2.93) ⁽²⁰⁾
- No.22 日本人を愛する。大切に思う。
- No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。
- No.25 夢や目標を持つ。

(9) $r = 0.19$ (10) $r = 0.01$ (11) $r = 0.06$ (12) $r = 0.11$ (13) $r = -0.12$
 (14) $r = -0.04$ (15) $r = 0.19$ (16) $r = 0.11$ (17) $r = -0.002$ (18) $r = 0.07$
 (19) $r = 0.12$ (20) $r = 0.14$

これらをまとめると、男子においては、「善さの程度」の得点および「善さの重要性」の得点と「行動化」の得点との間に、共通して相関が認められなかったのは、以下の6項目であった。

- No.1 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。
- No.4 学校の先生に挨拶をする。
- No.12 法律を守る。
- No.22 日本人を愛する。大切に思う。
- No.24 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。
- No.25 夢や目標を持つ。

一方、女子において、「善さの程度」の得点と「行動化」の得点との間に相関が認められなかったのは、以下の3項目であった。

- No.12 法律を守る。 (Me. = 3.56 (SD = 0.88))
 程度 (Me. = 8.38, SD = 1.78) ⁽²¹⁾ 重要性 (Me. = 8.56, SD = 1.67) ⁽²²⁾
- No.14 家族揃って、食事をする。 (Me. = 4.38, SD = 0.70)
 程度 (Me. = 7.04, SD = 2.15) ⁽²³⁾ 重要性 (Me. = 6.86, SD = 2.28) ⁽²⁴⁾
- No.15 親孝行する。 (Me. = 4.26, SD = 0.64)
 程度 (Me. = 8.14, SD = 1.65) ⁽²⁵⁾ 重要性 (Me. = 7.93, SD = 1.80)

また「善さの重要性」の得点と、「行動化」の得点との間に相関が認められなかったのは、以下の2項目であった。

- No.12 法律を守る。
- No.14 家族揃って、食事をする。

これらをまとめると、女子においては、「善さの程度」の得点および「善さの重要性」の得点と「行動化」の得点との間に、共通して相関が認められなかったのは、以下の2項目であった。

- No.12 法律を守る。
- No.14 家族揃って、食事をする。

(21) $r = 0.59$ (22) $r = 0.03$ (23) $r = -0.01$ (24) $r = 0.03$ (25) $r = 0.15$

更に、男子と女子において共通して、「善さの程度」の得点と「行動化」の得点との間に相関が認められなかったのは、以下の2項目であった。

No.12 法律を守る。

No.15 親孝行する。

また「善さの重要性」の得点と「行動化」の得点との間に相関が認められなかったのは、以下の2項目であった。

No.12 法律を守る。

No.14 家族揃って、食事をする。

考 察

1. 善さの行動化の因子構造

「善さの行動化」の因子構造の結果を検討すると、「善さの程度」「善さ重要性」と同様に男女差が認められるという特徴は同様である。

男子においては、第1因子として、「挨拶をする」「敬語を使う」など、いわゆる「礼儀」に関する行為と、乗り物の中で「お年寄りに席をゆずる」「携帯電話を使わない」などの「公衆道徳」に関する行為が同一因子として抽出されている。これは、「礼儀」に関する行為が、相手に対する尊敬の感情、敬意から実行されるのではなく、単なる「公衆道徳」として実行されていることを示唆していることがわかる。

第2因子は、「日本の国を大切に思う」「人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する」「自然を大切にする」という行為と、「夢や目標を持つ」などの行為が同一因子として抽出されており、「大切にすべき行為」の内容が、国、人間関係、自然、夢の実現などであると考えられる。

第3因子は、「法律を守る」「社会のルールを守る」「校則を守る」など「ルール遵守に関する行為」の3項目すべて抽出されている。それに加えて「年中行事」「先祖の墓参り」「太陽に手を合わせる」などの行為が組み込まれた。即ち、年中行事を行うことや、先祖の墓参りという行為が、ルールの一つとして考えられていると考えられ、男子においては、先祖とは心情的に手を合わせる存在というよりも、むしろ祀るべき存在、祀らなければならない存在として捉えられていると考えられる。

第4因子は、「家族や他人に対して感謝のことばを言う」ことや「神仏に手を合わせる」という行為と、「親孝行」に関する行為が組み込まれている。このことから、男子においては、家族や親を「感謝」の対象として捉えることで、「親孝行」や「家族と食事を共にする」という行為が為されているのではないかと考えられる。即ち、男子においては、親を感謝の対象として捉えることで「親孝行」が実行されるのであり、感謝するに値しないと判断した場合は「親孝行」が実行され難いということが考えられる。

一方、女子においては、第1因子として、「法律を守る」「社会のルールを守る」という「ルールの遵守に関する行為」と、「家族や他人に対して感謝のことばを言う」ことや「挨拶をする」「敬語を使う」などの「礼儀」に関する行為と、「自然を大切にすること」という行為が組み込まれており、「ルール遵守」という行為が、「感謝」「礼儀」「自然保護」などの範疇で捉えられ、実行されていることが示唆される。即ち、ルールを「守らなければならない行為」というよりも、むしろ「守った方がよい行為」という、緩やかな捉え方をしているのではないかと考えられる。また、女子におけるルール遵守に対する緩やかさを証明する結果として、「校則を守る」という項目が、この「ルール遵守」という因子に組み込まれないのかもしれない。前回の「善さの程度・重要性」の因子分析の結果（阿部洋子；2010年）でも、同様であったが、今回の「善さの行動化」の結果の整理においても、第4因子の「関係性の尊重」と強い関連性が認められており、女子のルールに対する認識の特徴の一つではないかと考えられる。

第2因子は、「先祖の墓参り」「神仏や太陽に手を合わせる」「年中行事」などが組み込まれており、女子においては先祖が、神仏や太陽と同様に、手を合わせる対象として捉えられているようである。男子において、「年中行事」や「先祖の墓参り」「神仏に手を合わせる」ことが「ルール遵守」の一つとして捉えられ、実行すべき行為として考えられていることと大きく異なっている。女子においては、先祖は手を合わせるべき対象であるとか、墓参りとは、行かなければならない行為であると認識されているのではないようである。畏敬の念をもって手を合わせているかどうかは不明であるが、心情的に手を合わせる存在だと考えているようである。

第3因子は、「日本の国を大切に思う」と「夢や目標を持つ」などの行為であり、「大切にすべき行為」の内容が、国、夢の実現などであることを示唆する因子であると考えられる。男子においては、「人間関係を大切にすること」や「自然を大切にすること」という行為が組み込まれていたが、女子においては、大切にすべき行為が、国と夢の実現に限定されて抽出されており、ここにも性差が認められる。

第4因子は、「親孝行」「家族揃って、食事をすること」「人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢すること」「乗り物の中で携帯電話の使用を控える」などである。このことから、女子においては、親孝行をしたり、家族揃って食事をしたり、乗り物の中で携帯電話を使用しないと

いう行為が、「関係性の尊重」として実行されていることが示唆される。男子においては、「親孝行」「家族揃っての食事」は、親や家族に対する「感謝」と関連して捉えられており、ここでも性差が認められる。

2. 善さの程度・重要性と行動化との相関

「善さの程度」と「善さの重要性」のそれぞれの得点（0～10点）と、「善さの行動化」の得点（1～5点）の相関分析を行ったところ、男女において、相関が見られない項目の多さが異なり、男子の方が女子に比べて、相関が見られない項目数が多かった。

男子においては「善さの程度」「善さの重要性」で測定された得点と、「善さの行動化」の得点に関連性が見られない項目が、「善さの程度」との間で10項目、「善さの重要性」との間で8項目であり、更に共通して相関が見られない項目が6項目あった。これらのことから、前回の結果報告（阿部洋子：2011年）で、「善さの程度」は「建前」を測定し、「善さの重要性」は「本音」を測定することの可能性を指摘したが、「行動化」との相関分析の結果を見ると、相関が見られる項目と、相関が見られない項目が類似していることから、必ずしも、「建前」と「本音」を測定するものではないのではないかという疑問が持たれる。しかし、これらの結果は、前回の結果報告をただちに否定するものではないかもしれない。むしろ、「善さの行動化」を質問紙調査によって測定することの難しさを再確認するものであるのかもしれない。

さて、男子において、「善さの程度・重要性」と「行動化」との間に相関が見られない項目について、詳細な考察を加えることにする。まず「善さの程度」および「善さの重要性」の平均得点を高得点順に並べてみると、「夢を持つ」（9.12～8.51点）、「家族や他人に感謝のことばを言う」（8.93～8.26点）、「ルール遵守」（8.86～7.33点）、「親孝行する」（8.37～8.19点）、「先生や近所の人に挨拶をする」（7.60～7.19点）、「家族と食事をする」（6.91～6.58点）、「日本人や故郷を大切に思う」（6.33～5.79点）となる。つまり、男子において、相関関係が見られなかった項目の中では、「夢を持つ」ことや「夢の実現のために努力する」ことが非常に善いことであり、続いて「感謝のことばを言う」ことが続き、「法律を守る」といった「ルール遵守」は7点台という低さを示し、更に、小学校で激行されている「挨拶」も7点台という低さであり、最後に「日本人や故郷を大切に思う」ことがそれほど善いことだと思われていないことが分かる。

そうした意識構造の中で、男子がどの程度「行動化」しているのか、その平均得点を高得点順に並べてみると、「感謝のことばを言う」（4.16～3.86点）、「挨拶する」（4.16～3.86点）、「ルール遵守」（4.35～3.49点）、「夢を持つ」（3.56～3.37点）となる。つまり、男子においては①「夢

を持つ」ことや「夢の実現のために努力する」ことは善いことだと認識されているが、「行動化」はされていないと実感しているということであろう。したがって、この結果は「夢を持つ」ことや「夢を実現するための努力」が重要なことだという教育が浸透していることを表しているのではないだろうか。しかし、現実の世界では、実際に「夢」を実現させることが困難である。相関が見られなかったということ以上に、理想と現実のギャップに、男子学生たちが直面していることを予想させる結果だと考えられる。近年の若者は「夢」を持っていないとか、「夢」に向かって努力をしていないという批判があるが、それは「夢」を持っていないのでもなく、努力を惜しんでいるのでもなく、むしろ描き続けてきた「夢」を、青年期に至るまでの間で諦めざるを得なくなった。諦めてしまい努力をしても仕様がないう無力感に陥っているという若者の姿があるように思われる。

次に、②「挨拶」については、小学校での挨拶行動の激行があったにも関わらず、「挨拶」することはそれほど善いことだとは感じていないということが、「善さの程度・重要性」の尺度得点に現れている。しかし、日常生活においては、十分「行動化」していると認識しているようである。この「挨拶は十分、実践している」という自己評価の結果は、現代の若者たちが、挨拶ができなくなっているという社会的評価と異なる結果である。即ち、学生同士、友だち同士では挨拶を気軽にしているが、目上の人や教師に対しては挨拶していないのではないかという巷の指摘に反する結果である。したがって、若者たちは十分、挨拶をしているつもりなのであろうが、年長者から見ると、不十分に映っているということになろう。何故ならば、「善さの程度・重要性」が7点台と低いことを考え合わせると、十分実践していると回答しているが、その回数・程度は低いと考えられるからである。これらのことから、挨拶という行為を、日常的に実践すべき行為として指導するのではなく、挨拶とは、他者に対する敬意の表現として必要かつ重要な行為であると教育することが必要だということを示唆する結果なのではないだろうか。

更に、③「ルール遵守」においては、「法律を守る」ことの行動化の得点が3.49点という低い得点を示していることが気付きである。何故ならば、行動化の得点において、「法律を守る」より「社会のルールを守る」の得点が4.35点と高くなっており、「法律」というものが守るべきものではあるが、実際には、「法律」を守っていない事態が多々あると回答しているという結果が見えたからである。今回の調査では、「法律」の中身が、交通法規なのか、憲法違反なのか詳細な内容は不明である。しかし、いずれにしても日常生活において「法律」より「社会のルール」の方が多く実践されており、「法律」の方は実践されていないという結果である。このことは、「人を殺してみたら、どんな気持ちになるか知りたかったので殺してみた」という現代の未成年者による不可解な殺人、動機なき殺人が起きてしまうこととも関連しているのかもしれない。また「社会のルール」のような関係性が見えるレベルでのルールを遵守することは頻繁に実行するが、それを取り巻く大きな「法律」について関心が低いということを示唆する結果なのかもしれない。

また「法律」がお金や政治権力を持った大人によって無意味化されているので、社会に巣立っていない自分たちが実践する必要はないと感じ、実践していないのかもしれない。

最後に④「日本人や故郷を大切にする」は「行動化」の平均得点は4.51～4.44点と高いにも関わらず、「善さの程度」「善さの重要性」の平均得点は6.65～5.79点と共に低いという結果を得ている。この「日本人や故郷を大切にする」では、調査対象者が、具体的にどのような行為を想定して回答したかは不明である。例えば、国旗掲揚、国歌斉唱という具体的な行動なのだろうか。あるいは外国人に日本の文化・日本人について問われたときに、十分に説明を尽くすということをも想定したのだろうか。あるいは、「日本人や故郷」を大切にする思いはあるというレベルなのかもしれない。しかし、「善さの程度」や「善さの重要性」の平均得点が低いことを考えると、日常的に頻繁に実践していると回答してはいるものの、その詳細な内容を知る必要があると考える。この問題は、日本人としてのアイデンティティの形成・維持・崩壊と関連する重要な行為だと考えるからである。今後、詳細な調査を実施する必要性を感じている。

さて、女子においては、「善さの程度」「善さの重要性」で測定された得点と、「善さの行動化」の得点に関連性が見られない項目が、「善さの程度」との間で3項目、「善さの重要性」との間で2項目であり、更に共通して相関が見られない項目が2項目あった。これらの結果は、男子のところでも述べた通り、前回の結果報告をただちに否定するものではなく、むしろ「善さの行動化」を質問紙調査によって測定することの難しさを再確認するものであるのかもしれない。

次に、女子において、「善さの程度・重要性」と「行動化」との間に相関が見られない項目について、詳細な考察を加えることにする。まず「善さの程度」および「善さの重要性」の平均得点を高得点順に並べてみると、「ルール遵守」(8.56～8.38点)、「親孝行する」(8.14～7.93点)、「家族そろっての食事」(7.04～6.86点)となる。つまり、女子において、相関関係が見られなかった項目の中では、「法律を守る」は8点台という高さを示し、次に、「親孝行する」も8点台という高さであり、最後に「家族そろっての食事」は7～6点台で、それほど善いことだと思われていないことが分かる。

そうした意識構造の中で、女子がどの程度「行動化」しているのか、その平均得点を高得点順に並べてみると、「家族そろっての食事」(4.38点)、「親孝行する」(4.26点)、「ルール遵守」(3.56点)となる。つまり、女子においては①「家族そろっての食事」や「親孝行する」ことは「善さの程度・重要性」のレベルは、それほど高いものではないが、日常的には実践をしているという結果であった。この結果は、戦後の日本の家族形態が、核家族化から更に進んで粒子化していったことと関係しているのかもしれない。つまり、親との関係性が希薄になったり、友だち親子のような関係性を好ましいものと捉えられるようになっていった。その結果、子どもにとって、親が感謝や尊敬の対象に成りえなくなっており、「善さの程度・重要性」はそれほど高得点を示さない

のに、「行動化」の得点が高いのは、一緒に食事をするのが惰性によることを意味しているのかもしれない。ところで「親孝行」とは具体的にどのような行為を想定しているのでしょうか。今後、詳細な調査を実施する必要があると感じている。

次に、②「ルール遵守」においては、「法律を守る」ことの行動化の得点が3.56点であり、男子同様、低い得点を示していることが気がりである。男子とは異なり、相関関係が見られなかった項目は、「法律を守る」だけであったが、いずれにしても日常生活において「法律を守る」行為がそれほど実践されていないという結果である。このことは、男子同様、女子においても、現代の未成年者による不可解な殺人、動機なき殺人の生起と関連しているのかもしれない。その理由については、男子のところでも述べた通り、「法律」がお金や政治権力を持った大人によって無意味化されているので、社会に巣立っていない自分たちが実践する必要はないと感じ、実践していないということなのかもしれない。

以上の通り、男女の間では、相関が見られない項目数において相違が認められた。また相関が見られない行為にも相違が認められたが、男女ともに、「法律を守る」という行為において「善さの程度」「善さの重要性」との間に相関が見られず、守るべき行為だと判断されているにも関わらず、日常的に実践していないという回答をしていることが分かった。この結果は、今後、遵法性の低下が日本の問題になることを予想させるものであるのかもしれない。これまでの研究（阿部洋子；2009年）において、「道徳的に悪い」ことが「法律で罰則規定」がある行為に偏る傾向が認められていることと考え合わせると、一層、道徳の退廃が進むことが懸念される。

要 約

埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）の1年生、238名（男子：86名、女子：152名）に対して、道徳に関する様々な行為について、「善さの程度」、「当為性」、「領域判断」、「重要性の程度」、「善さの行動化」について、質問紙を用いて、留置法で調査を実施した。

その結果、善さの行動化の因子構造や相関分析の結果において、いくつかの点で、男女差が認められた。

（1）「善さの行動化」の因子構造

男子では、第1因子として抽出された「礼儀」が、相手に対する尊敬の感情、敬意から実行されるのではなく、単なる「公衆道徳」として実行されていることが示唆された。第2因子は「大切にすべき行為」であり、それが国、人間関係、自然、夢の実現であることがわかった。第3因子は「ルール遵守」に関する行為であったが、その中に「年中行事」や「先祖」に関する行為が

組み込まれており、先祖が心情的に手を合わせる存在となっているというよりも、むしろ祀るべき存在、祀らなければならない存在として捉えられていることが示唆された。第4因子は「感謝」に関する行為の中に、「親孝行する」が組み込まれており、男子においては親を感謝の対象として捉えることで、親孝行が実践され、感謝するに値しないと判断することで、親孝行が実践されないことが示唆された。

一方、女子の「善さの行動化」の因子構造は、第1因子として「感謝」「礼儀」「自然保護」に関する行為と共に、「ルール遵守」に関する行為が抽出された。すなわち、社会のルールや法律などが「守らなければならない行為」というよりも、むしろ「守ったほうがよい行為」という穏やかな捉え方をしていることが示唆された。第2因子は「先祖」が手を合わせる対象として捉えられていることが示唆された。第3因子は「大切にすべき行為」であり、それが国、夢の実現であることがわかった。第4因子は「乗り物の中での携帯電話の不使用」が、「親孝行」「家族そろっての食事」という「関係性尊重」に関する行為と共に抽出されており、公衆道徳に関する行為も「関係性尊重」として捉えられる傾向にあることが示唆された。

(2) 「善さの程度・重要性」と「行動化」の相関関係

「善さの程度」と「善さの重要性」のそれぞれの得点(0～10点)と、「善さの行動化」の得点(1～5点)の間で相関分析を行ったところ、男女において、相関が見られない項目の多さが異なり、男子では「善さの程度」との間で10項目、「善さの重要性」との間で8項目であったが、女子では「善さの程度」との間で3項目、「善さの重要性」との間で2項目という結果になり、全体傾向として、男子の方が女子に比べて、相関が見られない項目数が多かった。ここで「行動化」との相関分析の結果を項目別に整理すると、相関が見られる項目と、相関が見られない項目が類似している。したがって前回の結果報告(阿部洋子;2011年)で、「善さの程度」は「建前」を測定し、「善さの重要性」は「本音」を測定することの可能性を指摘したが、それを否定するものではなく、むしろ「善さの行動化」を質問紙調査によって測定することの難しさを示唆するものであるのかもしれない。今後、更に詳細な調査を実施することが必要だと思われる。

さて、男子において相関が見られない行為は、①「夢の実現」に関する項目であった。「夢の実現」を高く評価しているが、「行動化」の得点は低い。この結果は、「夢を持つ」ことや「夢を実現するための努力」が重要だという教育が浸透しているということなのではないだろうか。しかし、現実の世界で、実際に「夢」を実現させることが困難である。理想と現実のギャップに、男子学生たちが直面していることを予想させる結果だと考えられる。近年の若者は「夢」を持っていないとか、「夢」に向かって努力をしていないという批判があるが、それは「夢」を持っていないとか、努力を惜んでいるということではなく、むしろ描き続けてきた「夢」を、青年期に至

るまでの間で諦めざるを得なくなった、あるいは努力をしても仕様がないう無力感に陥っているといえるのではないだろうか。

次に相関が見られない行為は、②「挨拶」に関する項目であった。「挨拶は十分、実践している」という自己評価の得点の高さは、現代の若者たちが、挨拶ができなくなっているという社会的風評と異なる結果である。したがって、若者たちは十分、挨拶をしているつもりだが、年長者から見ると、不十分に映っているということになろう。これは、「善さの程度・重要性」が7点台と低く、十分実践していると回答しているが、その回数・程度は低いということなのであろう。これらのことから、挨拶という行為を、単に日常的に実践すべき行為として指導するのではなく、挨拶とは、他者に対する敬意の表現として必要かつ重要な行為であると教育することが必要だと思われる。

次に相関が見られない行為は、③「法律」など「ルール」に関する項目であった。「法律」は守るべきものではあるが、実際には、「法律」を守っていない事態が多々あると回答しているのである。このことは、「人を殺してみたら、どんな気持ちになるか知りたかったので殺してみた」という現代の未成年者による不可解な殺人、動機なき殺人が起きてしまうこととも関連しているのかもしれない。あるいは「法律」についての関心が低いということを示唆する結果なのかもしれない。あるいは「法律を守る」ことが大人によって無意味化されており、自分たちも実践する必要はないと感じ、実践していないのかもしれない。

最後に④「日本人や故郷を大切にする」は、調査対象者が、具体的にどのような行為を想定して回答したかは不明である。しかし、「善さの程度」や「善さの重要性」の平均得点が低いことを考えると、頻繁に実践している行為が何であるかを知ることが必要であろう。何故ならば、この項目は、日本人としてのアイデンティティの形成・維持・崩壊と関連する重要な行為だと考えるからである。今後、詳細な調査を実施する必要性を感じている。

また、女子においては、①「家族そろっての食事」や「親孝行する」ことは「善さの程度・重要性」の評価得点は、それほど高いものではないが、日常的には実践をしているという結果であった。これは、戦後の日本の家族形態が、核家族化から、更に粒子化していったことと関係しているのかもしれない。つまり、親との関係性が希薄になったり、友だち親子のような関係性を好ましいものと捉えられるようになった結果、子どもにとって、親が感謝や尊敬の対象に成りえなくなっており、「善さの程度・重要性」はそれほど高得点を示さないのではないだろうか。したがって一緒に食事をするのは惰性によるのかもしれない。また「親孝行」とは具体的にどのような行為を想定しているのだろうか。今後、詳細な調査を実施する必要があると感じている。

②「ルール遵守」においては、「法律を守る」ことの行動化の得点が、男子同様、低い得点を示している。日常生活において「法律を守る」行為がそれほど実践されていないことは、男子同様、

現代の未成年者による不可解な殺人、動機なき殺人の生起を説明することができるのかもしれない。その理由については、男子のところで述べた通り、「法律」がお金や政治権力を持った大人によって無意味化されているので、社会に巣立っていない自分たちが実践する必要はないと感じ、実践していないということなのかもしれない。

参考文献

- 阿部洋子 1996 道徳性尺度作成の試み——予備的研究—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第6号
- 阿部洋子 1998 道徳性尺度作成の試み——予備的研究(3)—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第8号
- 阿部洋子 2005 現代日本人における「道徳性」に関する意識構造の心理学的解明の試論——「道徳性尺度」作成のための予備的調査(2)—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第38号
- 阿部洋子 2007 現代日本人の青年期における善悪に関する意識構造と道徳領域判断 跡見学園女子大学文学部紀要 第40号
- 阿部洋子 2009 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(1)「悪さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第42号(2)
- 阿部洋子 2010 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(2)「善さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第44号
- 阿部洋子 2011 現代日本人の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(3)善悪の評価の違いについて 跡見学園女子大学文学部紀要 第46号
- 文部省 1988 小学校指導書 道徳編
- 文部省 1988 中学校指導書 道徳編
- Smetana, J.G., Bridgeman, D.L. & Turiel, E. 1983 Differential of domains and prosocial behavior. In D.L.Bridgeman (Ed.), The nature of prosocial development; Interdisciplinary theories and strategies. (pp.163-183) New York; Academic Press.
- Turiel, E. 1978 The development of concepts of social structure: Social convention In Glick, J. & Clark-Stewart, K.A. (Eds.), The Development of social understanding. (pp.25-107). New York; Gardner Press.
- Turiel, E. 1983 The development of social knowledge: Morality and convention: Cambridge. England: Cambridge Press.